



2024年5月14日

各 位

会社名 丸藤シートパイル株式会社
代表者名 代表取締役社長 羽生成夫
(コード番号 8046 東証スタンダード)
問合せ先 経理部担当執行役員 宮下典久
(TEL: 03-3639-7649)

中期経営計画の策定と資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、2024年度から2026年度にわたる「中期経営計画」と「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」につきまして、下記のとおり決議したのでお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の内容

当社は、2024年度（2025年度3月期）から2026年度（2027年3月期）にわたる「中期経営計画」を策定し、新たな中長期ビジョン（2030Vision）として「コア事業の基盤強化と次の100年の創造」を掲げ、

- 1) 「重仮設のパイオニアとしての揺るぎない存在感」
- 2) 「新たな事業領域などへのチャレンジ」
- 3) 「当社の成長を通じて、社会の発展に貢献、ステークホルダーとの共生」
- 4) 「多様な強い人材『個』が活躍できる企業」

を目指してまいります。通過点となる当中期経営計画においては「事業構造改革」「成長」「経営力」の三本柱を戦略的に展開し、経営基盤を強化してまいります。

これらの基本方針のもと、各事業戦略を着実に進めることにより投資家の皆様から信頼される企業を目指してまいります。

詳細については添付資料をご参照ください。

2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

1) 現状分析・評価

当社の株主資本コストは7%台と認識しております（CAPMの手法により推定）。これに対し、ROEは、5%未満で推移しており、資本コストを下回った状態が続いており、また、PBR（株価純資産倍率）も過年度から1倍割れの状態で継続して推移している状況であります。当社は、財務基盤の健全性を維持していくことを重視し、従前より継続的に自己資本比率60%台と安定した状態を確保してまいりました。

一方で、バランスシートの積極活用など、財務健全性を維持しつつも、成長戦略に沿った機動的な様々な成長投資や効率的な資産の運用をさらに推進することで、収益性・資産効率

を向上させ、ROE、資本収益性の改善を図っていくことが必要であると認識しております。
詳細については添付資料をご参照ください。

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	31,876	35,104	34,543
経常利益	965	1,548	1,926
親会社株主に帰属 する当期純利益	749	1,038	1,372
ROE (%)	2.7	3.7	4.7
期末株価 (円)	1,937	2,065	2,988
1株当たり 純資産 (円)	7,670	7,884	8,330
PER (倍)	9.3	7.1	7.8
PBR (倍)	0.3	0.3	0.4

2) 具体的な取組み

① 「事業構造の変革」「成長」「経営力強化」

中期経営計画の3つの取組み課題に対しては主に以下のことに取り組むことで、中期的にROE 7%を上回る水準への改善を目指してまいります。

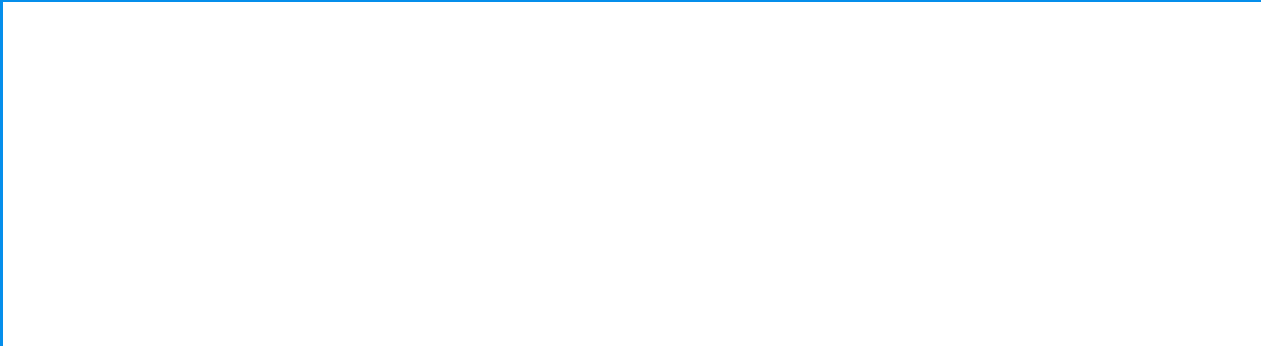
- 重仮設資材の提供を中心に、現場の潜在需要を見定めた新工種の提案と受注促進、加工案件の受注拡大
- 建設資材の保有量を適切に維持・管理し資産の効率性を向上
- 整備能力・生産性向上を図るための設備投資、業務プロセス改革推進のためのIT関連の効率化投資、技術力強化のための研究開発投資等の推進
- 社内研修制度を中心とした人材育成活動の継続と安心安全の追求・業務効率化等による働き方改革の推進による経営力強化
- IR活動を積極的に推進し、更なる市場の信頼、成長期待を醸成

②株主還元方針

当社は、かねてより株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けており、業績に裏付けられた安定的且つ適正な利益配分を継続することを基本方針としております。今後も更なる成長に向けた様々な積極的投資、資本効率や財務状況を総合的に勘案しながら、配当性向 30%程度を視野に入れた利益配分を継続してまいります。

詳細については添付資料をご参照ください。

以 上



中期経営計画 2024-2026年度

MARUFUJI

丸藤シートパイル株式会社

2024年5月



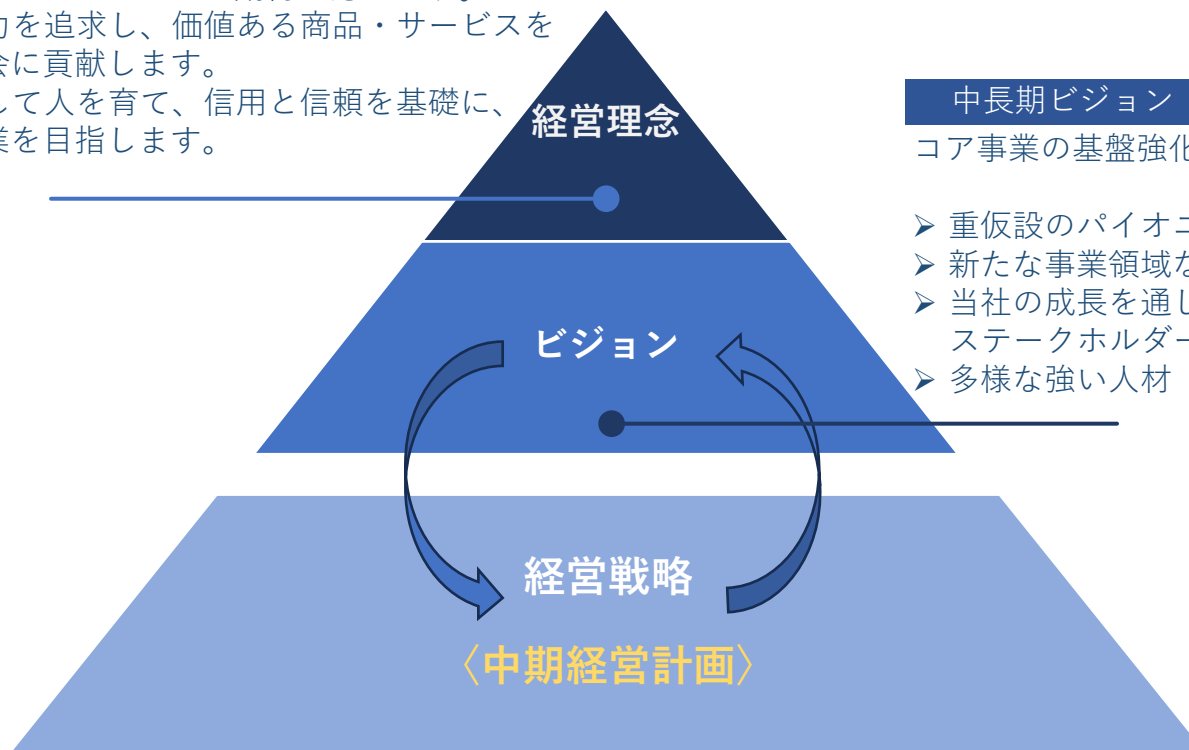
- 当社は、2024年度から2026年度を最終年とする3ヶ年の中期経営計画を策定しましたので、お知らせいたします。
- 前中期経営計画（2021-2023年度）におきましては、当初計画しました収益目標（*）を達成し成長軌道への道筋をつけることができました。

（*）2023年度（連結）	目標	売上高350億円	経常利益18億円
	実績	売上高345億円	経常利益19億円
- 一方で、国内の建設市場は当面堅調に推移し重仮設需要も目先は安定推移と見込んでおりますが、原材料価格や外注コストの上昇、地政学リスク、株式市場・為替相場・金融マーケット環境等の変動による不確実性も存在することから、引き続き事業構造の変革を継続していく必要のある状況と認識しております。
- かかる課題認識をふまえ、当社は、持続的な成長とステークホルダーとの共生を図るため、「コア事業の基盤強化と次の100年の創造」という2030年に向けた中長期ビジョンを設定しました。本中期経営計画は、2026年に到来する創業100周年も念頭に、中長期ビジョンを達成するための通過点として、戦略的には「事業構造の変革」「成長」「経営力」の3本柱で展開し、歴史に裏打ちされた会社基盤をさらに強化し、将来に向けた成長の種をまくことで、企業価値の向上に取り組んでまいります。
- 主要な定量目標としては、計画の最終年度となる2026年度（2027年3月期）に連結売上高400億円、連結経常利益20億円を設定し、また、配当性向30%程度を視野に入れた安定的且つ適正な株主還元を継続してまいります。
- 本中期経営計画の目標達成に向け、鋭意取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

当社グループは建設業界のニーズに応えた資機材及び技術・工事・加工の提供を通じて社会資本の整備に貢献します。

- 安心・安全を守り、公正で誠実な企業活動により、すべてのステークホルダーの期待に応えます。
- 優れた技術力を追求し、価値ある商品・サービスを提供して社会に貢献します。
- 人を大切にして人を育て、信用と信頼を基礎に、魅力ある企業を目指します。



中長期ビジョン

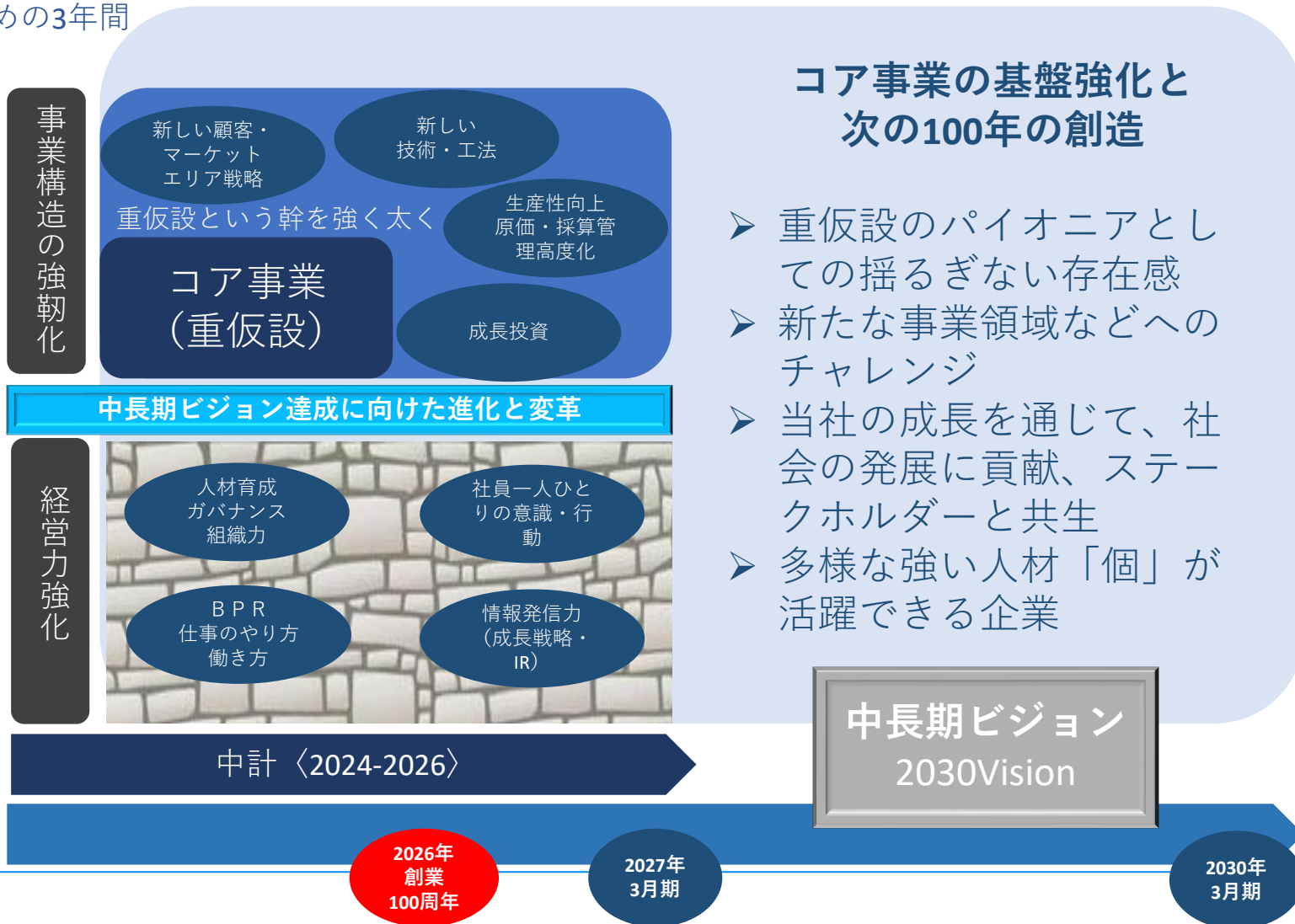
コア事業の基盤強化と次の100年の創造

- 重仮設のパイオニアとしての揺るぎない存在感
- 新たな事業領域などへのチャレンジ
- 当社の成長を通じて、社会の発展に貢献、ステークホルダーとの共生
- 多様な強い人材「個」が活躍できる企業

中長期ビジョンの実現に向けた中期経営計画を策定

コア事業を強化し、次の100年を創るための進化と変革の3年間

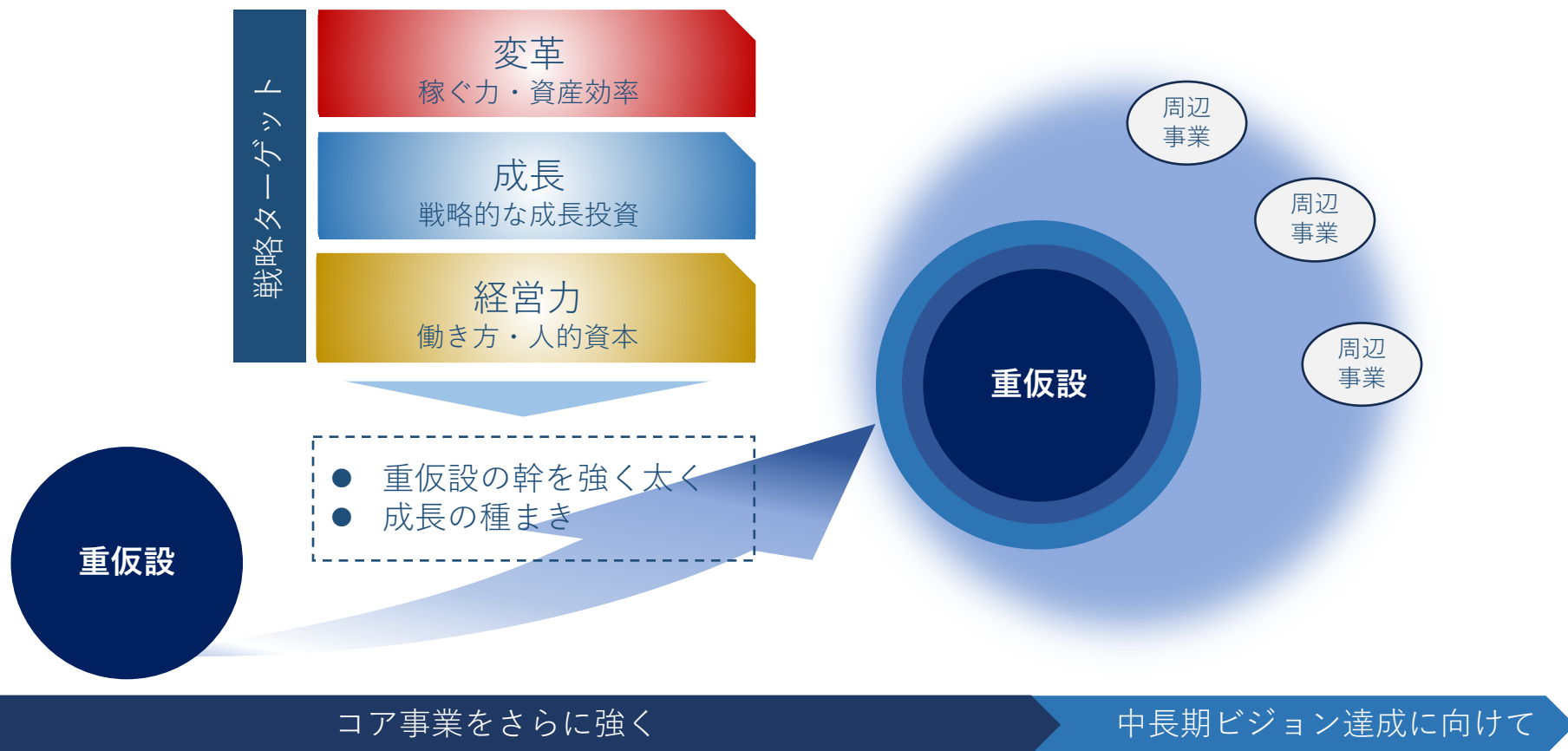
- 2030年に向けた中長期ビジョン達成のため、コア事業のゆるぎないポジション確立と将来の飛躍的な企業価値向上を展望する経営基盤の構築
- 本業の重仮設という幹を強く太くするために自ら変革し、成長の種をまき、将来に向けてステップアップするための3年間

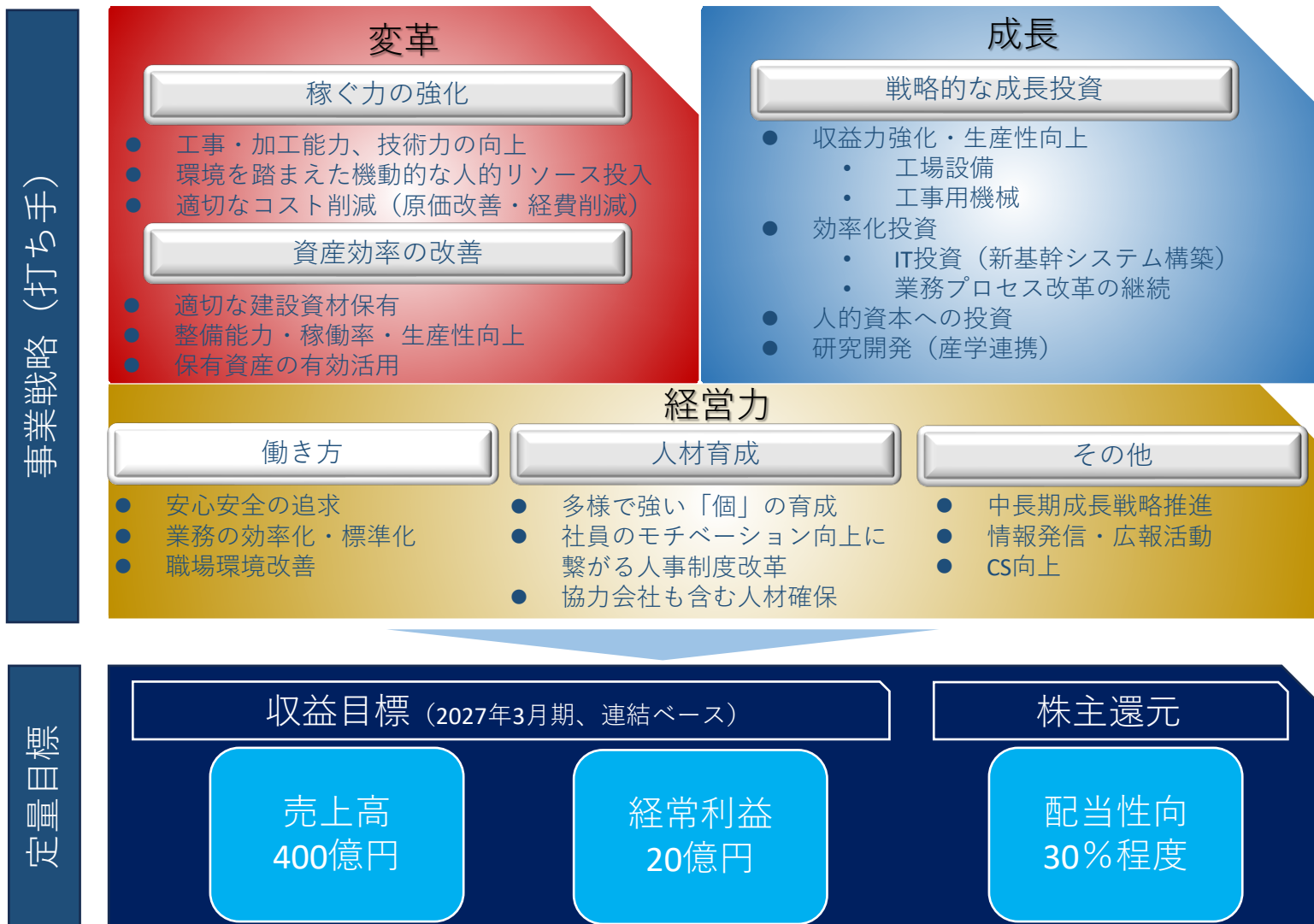


コア事業の基盤強化と次の100年の創造

- 重仮設のパイオニアとしての揺るぎない存在感
- 新たな事業領域などへのチャレンジ
- 当社の成長を通じて、社会の発展に貢献、ステークホルダーと共生
- 多様な強い人材「個」が活躍できる企業

- ▶ 持続的な企業価値向上のため、外部環境の変化に的確に対応し、人材育成ほかの経営力を強化しつつ、事業基盤の強化、事業構造の変革・進化をさらに推進する。





資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

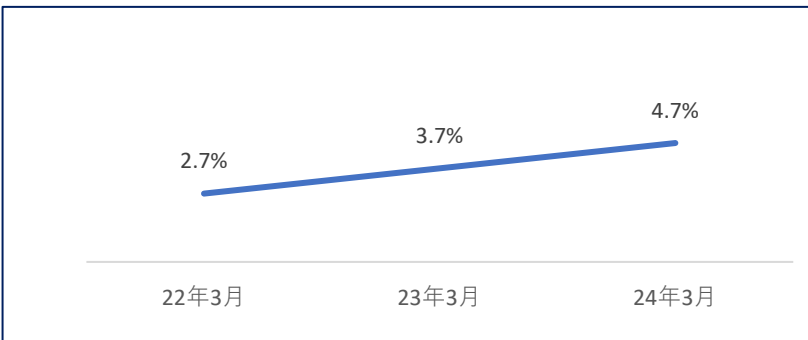
MARUFUJI

2024年5月14日

丸藤シートパイル株式会社

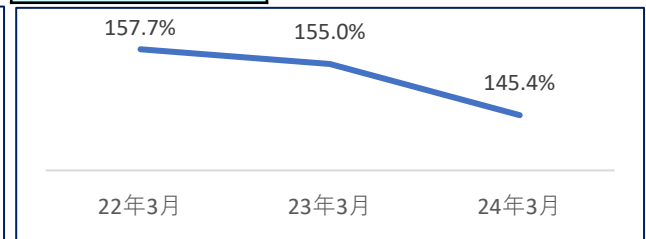
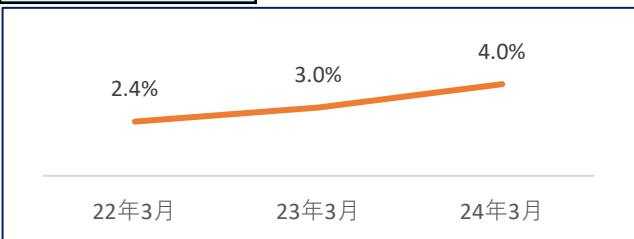
ROEの推移、分析、評価、対応

ROE	当期純利益 株主資本	=	当期純利益 益率	当期純利益 売上高	×	総資産回 転率	売上高 総資産	×	財務レバ レッジ	総資産 株主資本
-----	---------------	---	-------------	--------------	---	------------	------------	---	-------------	-------------



○ROEは、長期にわたり株主資本コストを下回った状態で推移
 ○取組み課題・対応
 <稼ぐ力の強化> <資産効率の改善> <戦略的な成長投資>
 →収益性の向上に向けた改善
 →資本構成の最適化に向けた改善
 ●上記課題を着実に取り組むことで、中期的にROE 7%以上への改善を目指す

当期純利益率の推移、分析、評価、対応		総資産回転率の推移、分析、評価、対応		財務レバレッジの推移、分析、評価、対応	
当期純利益		売上高		総資産	
売上高		総資産		自己資本	



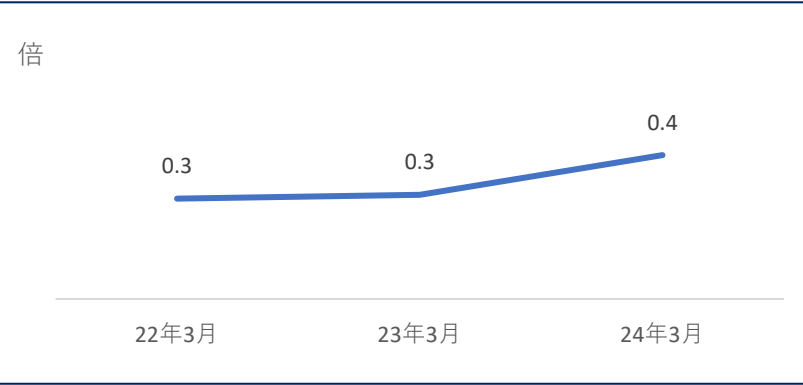
○コロナ禍における工事の着工及び進捗の遅延、計画の見直しが継続的に起きたが、都市圏の再開発プロジェクト進捗により回復。
 ○取組み課題・対応 <稼ぐ力の強化>
 →利益率の高い受注物件に集中的に営業力強化
 ※現場の潜在需要を見定めた新工種の提案、加工案件の受注拡大

○将来の企業価値向上に向けた成長投資が不十分であったことで低水準に推移。
 ○取組み課題・対応 <資産効率の改善>
 →効率的な資産運用・有効活用
 ※整備能力・生産性向上を図るため工場設備への投資・入替を促進。建設資材の保有量を適切に維持・管理し資産の効率性を高める

○財務基盤の強化、健全性、安定性を重視した経営に偏重
 ○取組み課題・対応 <戦略的な成長投資>
 →財務レバレッジを活用した成長投資を促進しながらバランスシートの積極活用を図る
 ※工場設備・工事用機械・ITシステム関連への投資、人的資本への投資

PBRの推移、分析、評価、対応

PBR	株式時価総額	=	ROE	当期純利益	×	PER	株式時価総額
	株主資本			株主資本			当期純利益
PBR	株価						
	1株当たり純資産額						

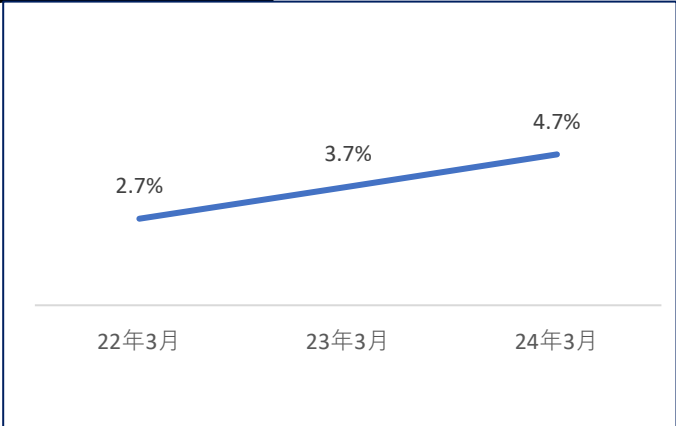


○PBRは、過年度から1倍を下回った状態で推移。

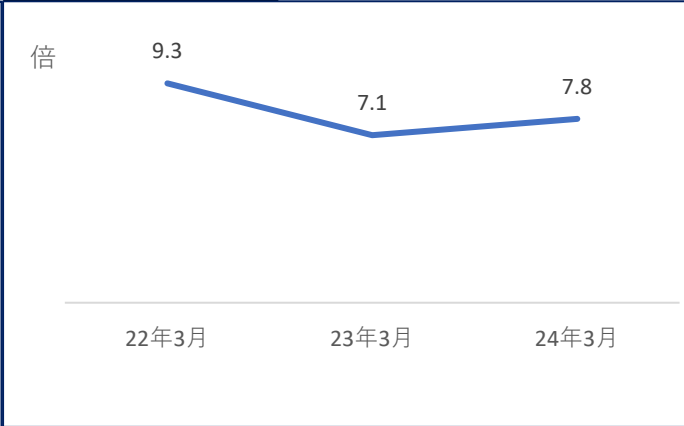
○取組み課題・対応
 < ROEの改善 > < PERの改善 >
 → 収益性の向上に向けた改善
 → 資本構成の最適化に向けた改善
 → IR活動の改善

●上記課題を着実に取り組むことで、PBRの改善を図る

ROEの推移



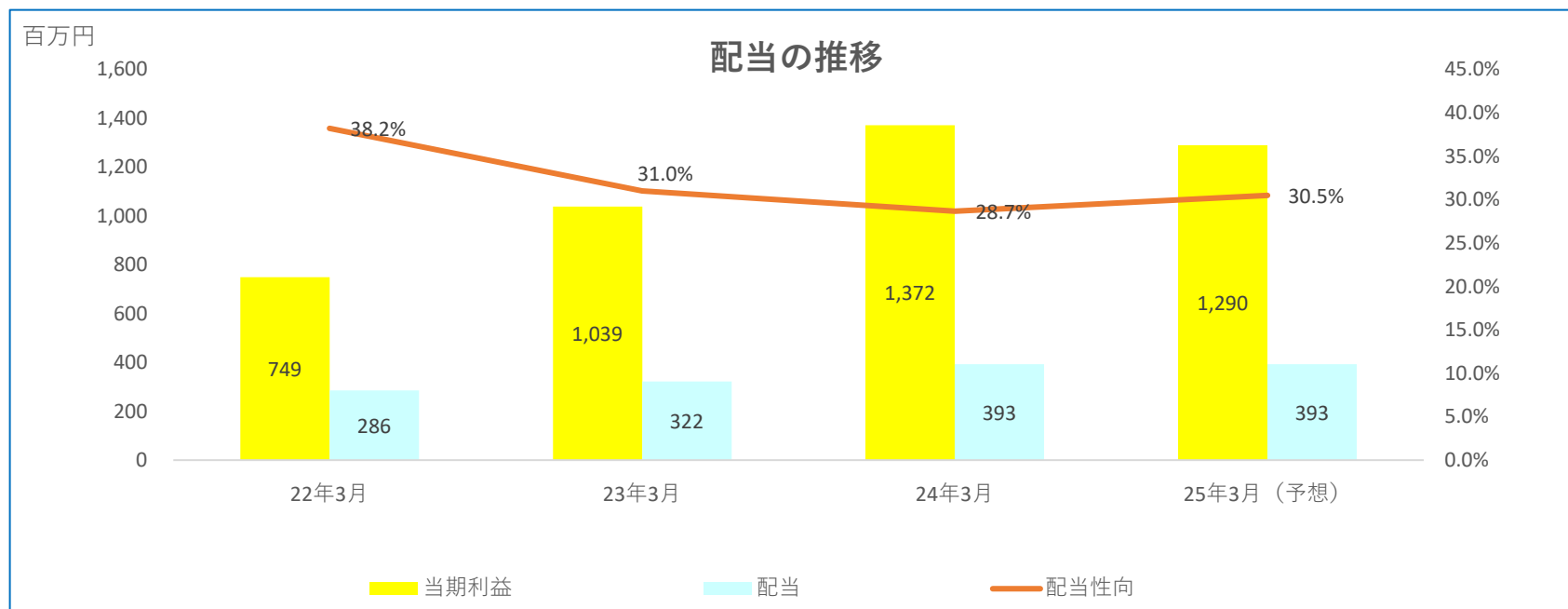
PERの推移



PERの分析・評価

○短期的な業績の発表しか行っておらず、中長期的な事業戦略・成長戦略や資本政策についての説明不足により投資家への認知度が低い

○取組み課題・対応
 → IR活動の改善
 ※継続的に広報活動を展開
 ※決算補足説明資料や非財務情報等の当社ホームページの紹介内容の充実化



株主還元につきましては、かねてより株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けており、業績に裏付けられた安定的且つ適正な利益配分を継続することを基本方針としております。今後も更なる成長に向けた様々な積極的投資、資本効率や財務状況を総合的に勘案しながら、配当性向30%程度を視野に入れた利益配分を継続してまいります。

本資料には、当社グループの事業戦略及び数値目標等の将来の予想及び見通しの記述が含まれております。こうした記述は、当社が本資料作成時点において把握可能な情報並びに本資料作成時点における仮定に基づく見込みで、経済動向等に関する不確実性が含まれております。このためかかる記述は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。当社の財政状態及び経営成績や投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、決算短信、有価証券報告書等の開示資料等、当社が公表した各種資料をご参照ください。

丸藤シートパイル株式会社